

令和3年6月28日
株式会社一条工務店

報道関係各位

「夏の自宅内の湿気・暑さに関する意識調査」結果を発表
夏場に実施している湿気対策に満足していない人が8割以上
半数以上の人冷房の設定温度について家族と揉めた経験あり！
在宅時間が増加した人のうち9割の人が昨年の夏に電気代が増加

株式会社一条工務店（代表取締役社長:岩田直樹）は、20代以上の既婚の男女1,324名を対象に、「夏の自宅内の湿気・暑さに関する意識調査」を実施。コロナ禍において自宅で過ごす時間が増えたことを踏まえ、夏の自宅内における湿気や暑さに関する悩みや対策の状況について調査しました。

「夏の自宅内の湿気・暑さに関する意識調査」サマリー

「夏の湿気に関する調査」

- 夏の自宅内の湿気が気になる人は約9割。湿気が気になるタイミング1位は「帰宅したとき」。湿気が気になる場所1位は「リビング」。
- 夏場の湿気対策で最も多かったのは「エアコンでの除湿」。しかし、8割以上の人現在の湿気対策に不満あり。

「夏の暑さに関する調査」

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、在宅時間が増えた人は半数以上。約9割の人が昨年の夏に電気代が増えたと実感。2倍以上になった人も1割超。
- 昨年の夏、湿気・暑さ対策商品を買った人は約6割。購入理由は「増加した在宅時間を快適に過ごすため」が1位。
- 半数以上の人「冷房の設定温度について家族と揉めたことがある」。設定温度の主導権は妻が握っている割合が高い。

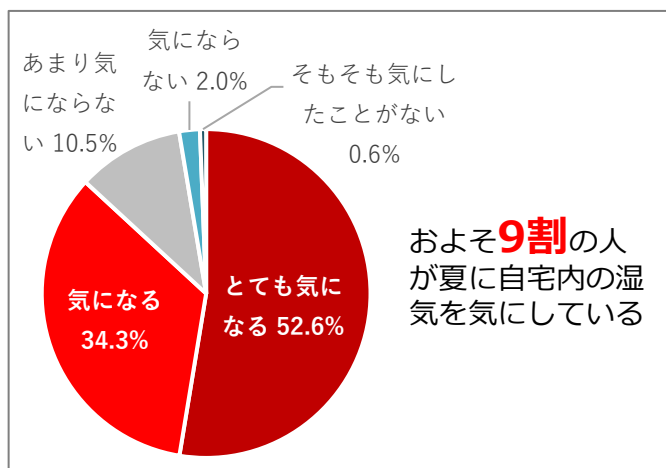
約9割の人が夏場の自宅内の湿気が気になると回答。湿気が気になるタイミングは、1位「帰宅したとき」、2位「入浴後」、3位「就寝時」。

湿気が気になる場所1位は「リビング」。また、2位「寝室」3位「脱衣所」で、「就寝時」「入浴後」といった湿気が気になるタイミングとも一致。

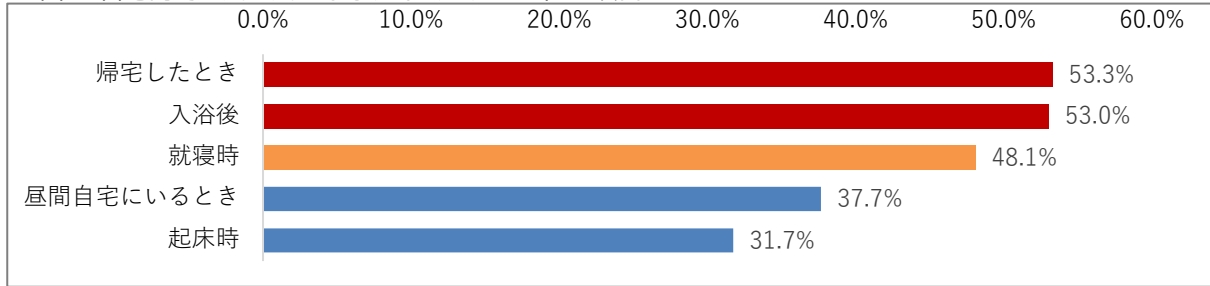
「夏に自宅内の湿気が気になることはありますか」という設問に、最も当てはまる項目を選んでもらったところ、半数以上の人「とても気になる」と感じており、「気になる」と回答した人を合わせると、約9割が、湿気が気になっていることが分かりました。（図1）

続いて、「とても気になる」「気になる」と回答した1,150人に「自宅内で湿気が気になるタイミング（複数選択可）」を尋ねたところ、1位は「帰宅したとき」、2位は「入浴後」でどちらも半数以上の人回答。また、半数近くの人「就寝時」と答えました。（図2）

＜図1：夏に自宅内の湿気が気になる人の割合＞ n=1324

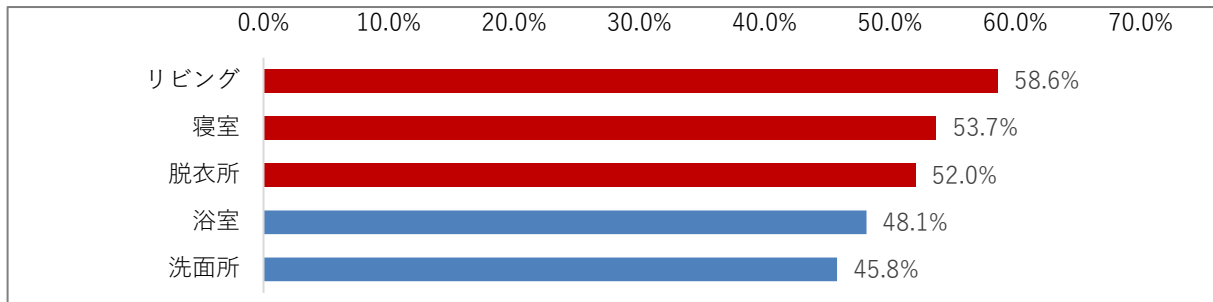


<図 2: 自宅内で湿気が気になるタイミング 上位 5 項目> n=1150



また、「湿気が気になる場所」を複数選択で答えてもらったところ、1位は「リビング」でおよそ 6 割の人が回答。2 位と 3 位は図 2 の「湿気が気になるタイミング」とも関連する「寝室」と「脱衣所」がランクインしました。(図 3)

<図 3: 湿気が気になる場所や箇所 上位 5 項目> n=1324

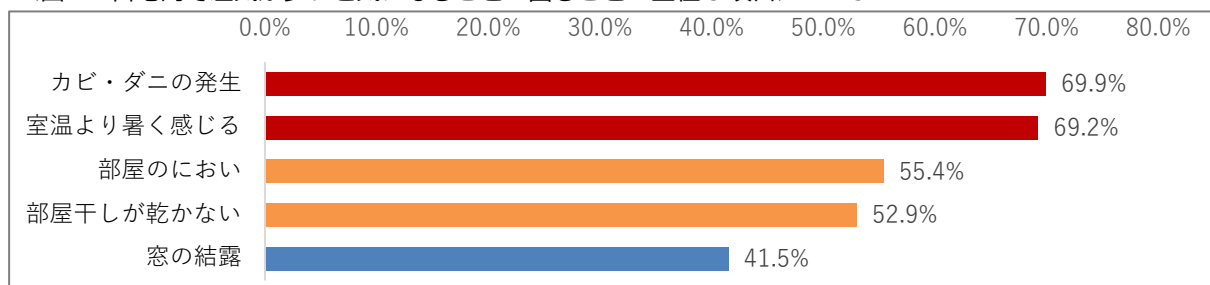


自宅内で湿気が多いと気になること・困ることについて、約 7 割の人が「カビ・ダニの発生」、「室温より暑く感じる」と回答。

夏場の湿気対策で最も多かったのは「エアコンでの除湿」で、7 割近くの人が実施。8 割以上の人が現在の湿気対策に不満あり。

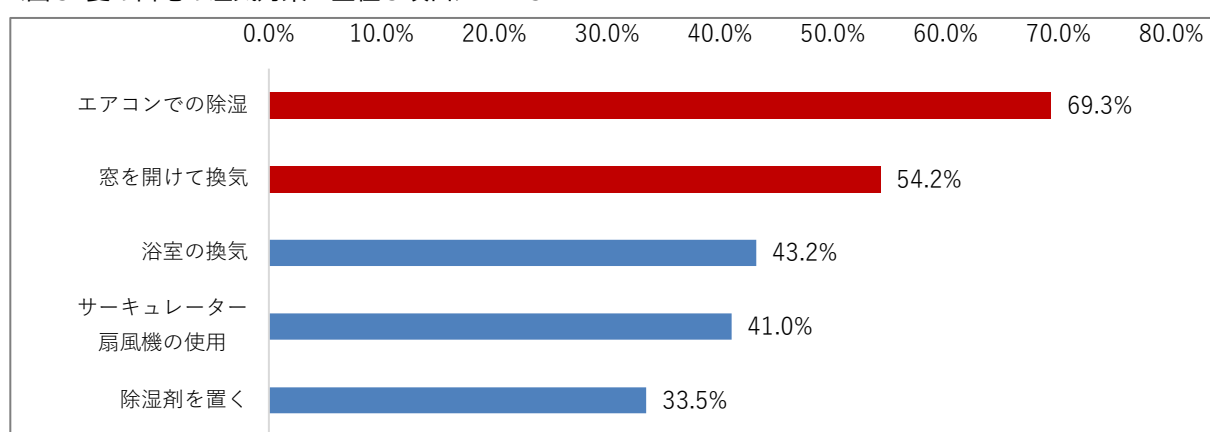
「自宅内で湿気が多いと気になること・困ることは何ですか（複数選択可）」という問いに対しては、約 7 割の人が「カビ・ダニの発生」、「室温より暑く感じる」と回答。また、半数以上の人々が「部屋のにおい」「部屋干しが乾かない」と答えました。(図 4)

<図 4: 自宅内で湿気が多いと気になること・困ること 上位 5 項目> n=1324



続いて、「夏の自宅の湿気対策」について複数選択で答えてもらったところ、最も多かったのは「エアコンでの除湿」で約 7 割の人が実施していました。2 位は「窓を開けて換気」で半数以上の人々が回答しました。(図 5)

<図 5: 夏の自宅の湿気対策 上位 5 項目> n=1324



また、何らかの湿気対策をしていると回答した 1,285 人に、「夏に実施している湿気対策の満足度」について、最も当てはまる項目を選んでもらったところ、約半数の人が「あまり満足していない」と答え、3 割以上の人々が「満足していない」と回答。8 割以上の人々が現在の湿気対策に何らかの不満を持っていることが判明しました。（図 6）

<図 6:夏の湿気対策に対する満足度> n=1285

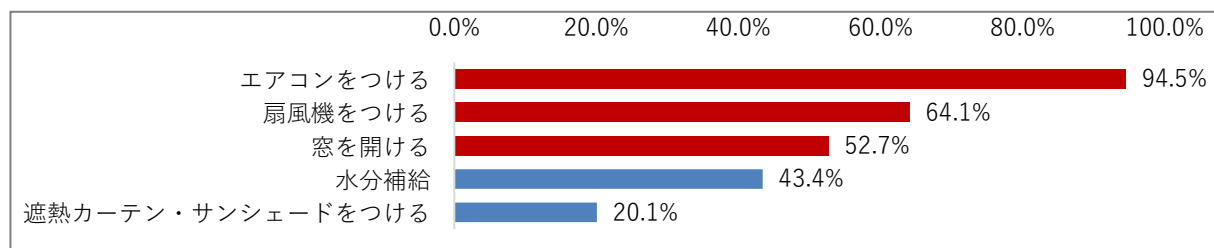


夏の自宅内の暑さ対策として、ほとんどの人がエアコンを使用。しかし、6 割以上の人々が「エアコンの使用しすぎで電気代が高い」、半数以上の人々が「人によって適温が違う」という不満・悩みを持っていることが判明。

夏に自宅内で暑さを感じる家事 1 位は「料理」。

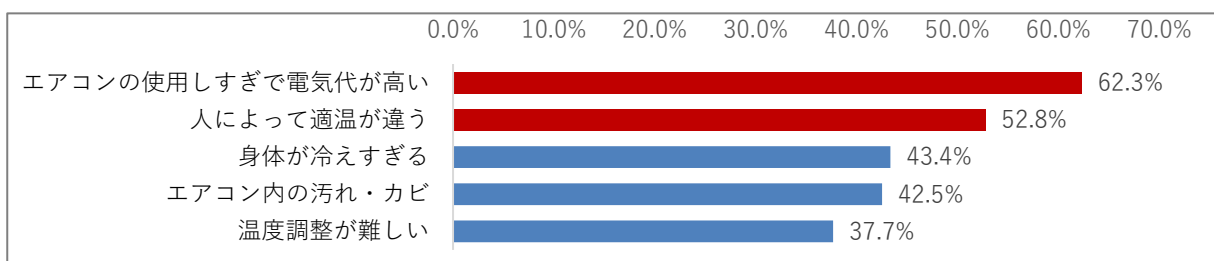
「夏の自宅内の暑さ対策としてどんなことをしていますか」と尋ねたところ、「エアコンをつける」と回答した人が 94.5%で、ほとんどの人がエアコンを使用していることが分かりました。また、6 割以上が「扇風機をつける」、5 割以上が「窓を開ける」と回答しました。（図 7）

<図 7:実施している夏の暑さ対策 上位 5 項目> n=1324



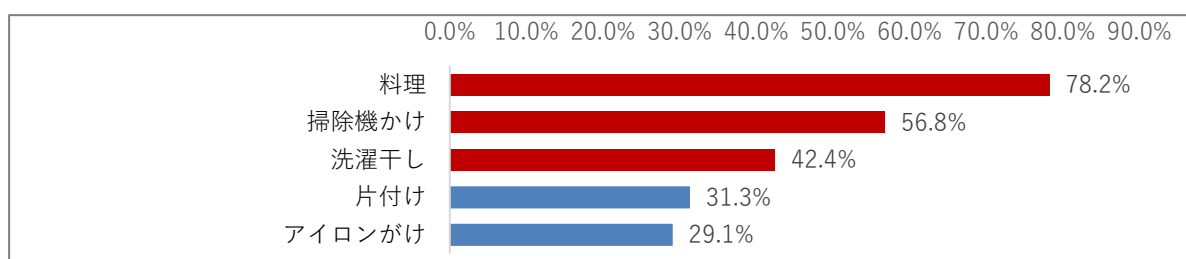
ほとんどの人が暑さ対策にエアコンを利用していることを踏まえ、「暑い時期に自宅でエアコンを使用する際の不満や悩み」について複数選択で答えてもらったところ、6 割以上の人々が「エアコンの使用しすぎで電気代が高い」と回答。また、半数以上の人々が「人によって適温が違う」と回答しました。（図 8）

<図 8:暑い時期に自宅でエアコンを使用する際の不満や悩み 上位 5 項目> n=1324



「夏に自宅内でどの家事をしているときに暑さを感じますか」と尋ねたところ、最も多かったのは「料理」で、8 割近い人が料理中に暑いと感じていることが分かりました。また、2 位は「掃除機かけ」で半数以上の人々が回答。3 位は「洗濯干し」で 4 割以上の人々が回答しました。（図 9）

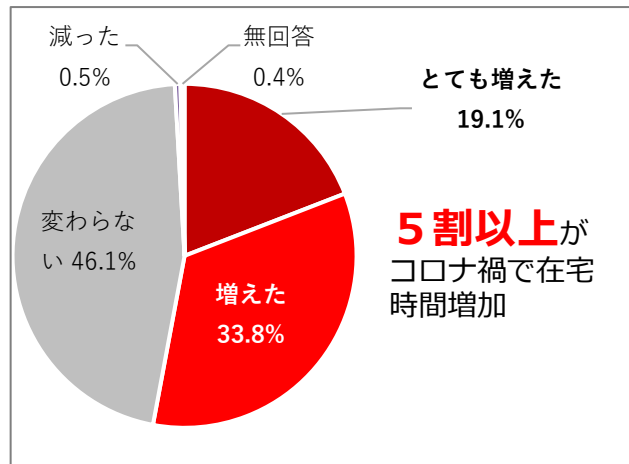
<図 9:夏に自宅内で暑さを感じる家事 上位 5 項目> n=1324



**新型コロナウイルス感染拡大の影響により、在宅時間が増えた人は半数以上。
9割の人が今年の夏に電気代が増えたと実感。2倍以上になった人も1割超。**

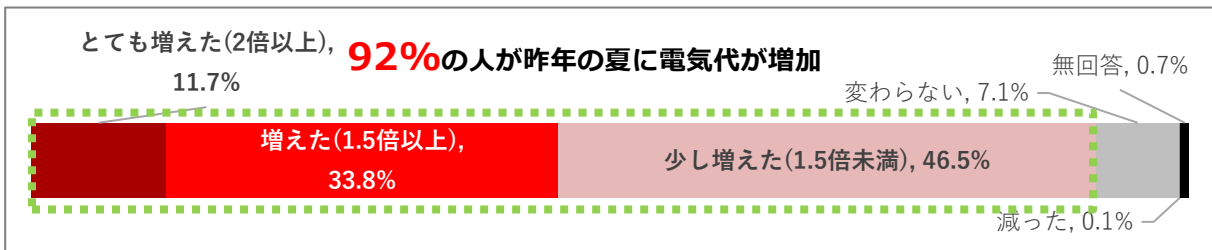
さらに、コロナ禍での夏の電気代の増加について調査をしました。「新型コロナウイルス感染拡大の影響により、テレワークや外出自粛等により在宅時間が増えましたか」と尋ね、最も当てはまる項目を選んでもらったところ、「とても増えた」「増えた」を合わせて、半数以上の人の在宅時間が増えていることが分かりました。(図 10)

また、在宅時間が増えたと答えた 701 人を対象に、「今年の夏、コロナ禍で在宅時間が増えたことにより、電気代は増えましたか」と尋ねたところ、「少し増えた(1.5 倍未満)」が最も多く、「増えた(1.5 倍以上)」「とても増えた(2 倍以上)」が続きました。9 割以上の方は今年の夏に電気代が増えたと実感しており、1.5 倍以上増えた人が 4 割以上、2 倍以上増えた人も 1 割以上いることが分かりました。(図 11)



<図 10:新型コロナウイルス感染拡大の影響による在宅時間の増減> n=1324

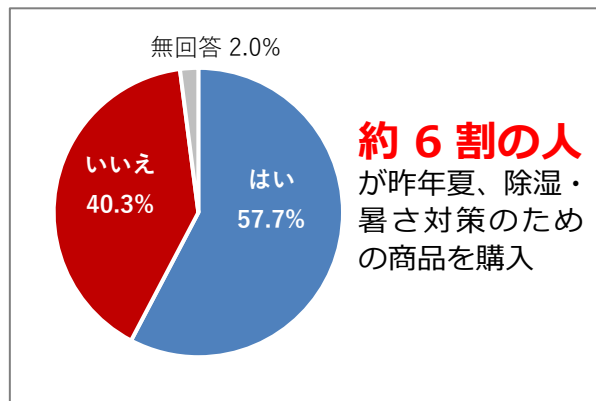
<図 11:今年の夏、在宅時間が増えたことによる電気代の増減> n=701



今年の夏、自宅の除湿・暑さ対策のために商品を購入した人は約 6 割。購入した商品で最も多かったのは「冷感寝具」。

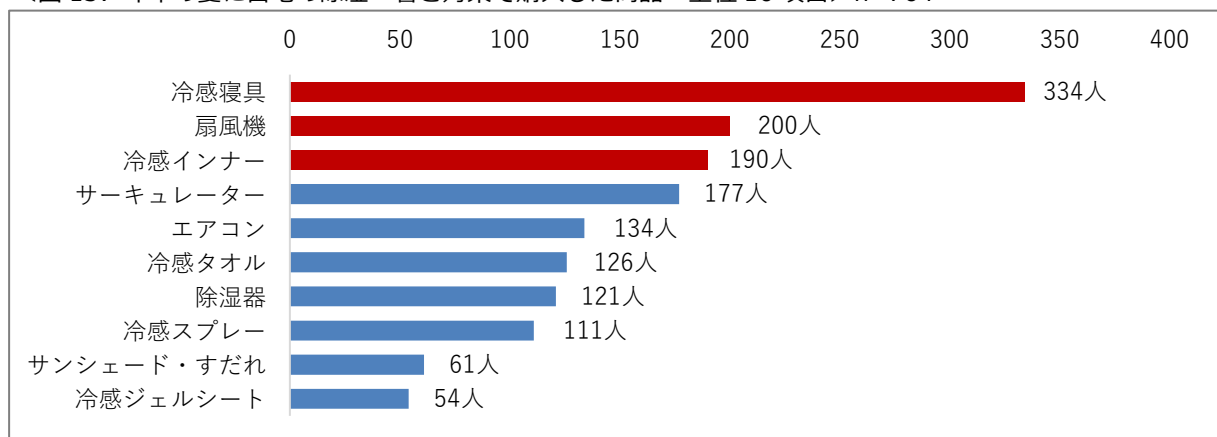
購入した理由は、「増加した在宅時間を快適に過ごすため」が 1 位。

在宅時間が増えた人が多いことを踏まえ、今年の夏に自宅の除湿・暑さ対策のために買い足したり買い替えたものがあったか複数選択で答えてもらったところ、約 6 割の人が買い足したのや、買い替えたものがあったことが分かりました。(図 12) 購入したものの 1 位は「冷感寝具」、2 位は「扇風機」、3 位は「冷感インナー」でした。(図 13)



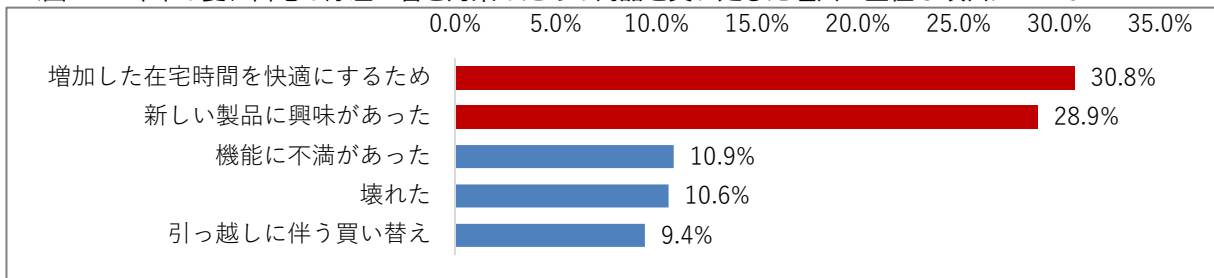
<図 12:今年の夏に自宅の除湿・暑さ対策で購入した商品があったか> n=1324

<図 13: 今年の夏に自宅の除湿・暑さ対策で購入した商品 上位 10 項目> n=764



また、昨年の夏に自宅の除湿・暑さ対策で商品を購入した 764 人を対象に、購入した理由を複数選択で答えてもらったところ、1 位の「増加した在宅時間を快適にするため」2 位の「新しい製品に興味があった」がどちらも約 3 割となりました。(図 14)

<図 14: 昨年の夏、自宅の除湿・暑さ対策のための商品を買った理由 上位 5 項目> n=764

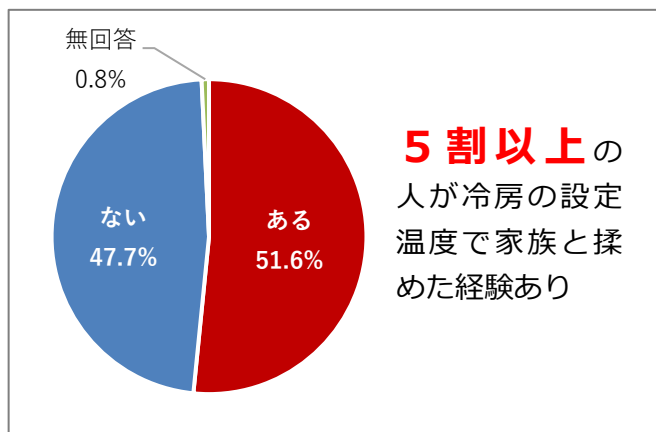


夏のエアコン使用で多い悩み「人によって適温が違う」に関連し、半数以上の人冷房の設定温度について家族と揉めたことがあると回答。

さらに、リビングなど共有スペースにおいて、家族の中で、温度管理の主導権を握るのは「妻」である割合が高いことが判明。

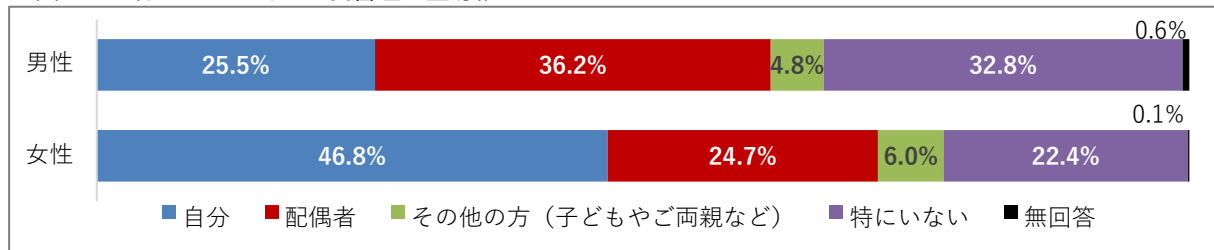
図 8 の「暑い時期に自宅でエアコンを使用する際の不安や悩み」について、半数以上の人「人によって適温が違う」と感じているという結果を踏まえ、冷房の設定温度について家族と揉めたことがあるか尋ねたところ、半数以上の人「ある」と回答しました。(図 15)

<図 15: 冷房の設定温度で家族と揉めた経験> n=1324



さらに、自宅の共有スペース(リビング等)の温度管理は家族の中で誰が主導権を握っているか尋ねたところ、男性の回答で最も多かったのは「配偶者」でした。さらに、女性では「自分」がおおよそ半数を占めたことから、同じ部屋で過ごす際、家族の中で妻が温度管理の主導権を握っている割合が高いことが分かりました。(図 16)

<図 16: 共有スペースでの温度管理の主導権> n=1324



■ 調査概要

調査手法：オンラインアンケート

調査期間：2021年6月5日(土)～6月13日(日)

調査対象：20代以上の既婚で配偶者と同居をしている男女

有効回答数：1,324 サンプル

回答者：男性 475 名、女性 849 名 (20 代 228 名、30 代 656 名、40 代 253 名、50 代 135 名、60 代 45 名、70 代以上 7 名)

※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても 100 にならない場合があります。

《ご参考》

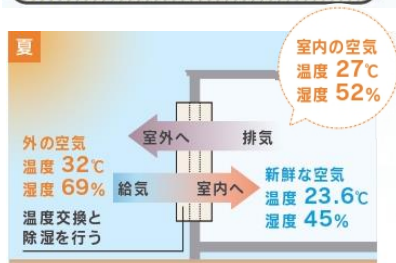
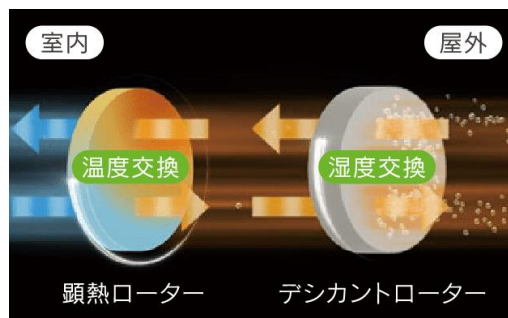
今回の調査では、コロナ禍で在宅時間が増える中、自宅の湿気が気になりながらも、対策には満足していない人が多いことが判明しました。また、暑さ対策ではエアコンを使用することによる、電気代の上昇や家族間での適温の違いに悩む人が多くいることが分かりました。一条工務店では、こうしたお悩みに対応できる、全館空調システム「全館さらばか空調」を提案しています。

一年中、家中が快適！世界初※の「全館さらぼか空調」とは

◆全館さらぼか空調の仕組み

「全館さらぼか空調」は、一条工務店オリジナルの小型デシカント技術により、一年中、家中快適な空気環境を実現する、全館空調システムです。デシカント方式とは、吸着剤に水分を吸着させることで除湿する方式のことで、ショッピングモールやビルなどで用いられています。当社はこのデシカント方式除湿機の小型化に成功。夏は2つのローターで湿度と温度のコントロールを行いながら換気し、床冷房で家中の余分な熱を吸収。さらに、家自体の優れた気密性・断熱性により、外気の熱をシャットアウトすることで避暑地のような心地よさを実現します。

※デシカントによる、湿度調整機能付換気システムと、全館床冷暖房を組み合わせた、戸建住宅用全館空調システムにおいて世界初。(自社調べ 2015年12月時点)



※メーカーの試験設備による実測



全館さらぼか空調のメリットとは

◆家中を快適な湿度に保つ

調査では、湿気の悩みとして、「ダニ・カビの発生」「室温より暑く感じる」「部屋干しが乾かない」といった項目が挙げられました。「デシカント換気システム」では、除湿した空気を各部屋に供給し、家中の湿度を50%前後に保ちます。そのため、室温が27~28度でも暑さを感じにくく、空気がさらっとして快適です。さらに、湿度を50%前後に保つことでダニ・カビの発生を防ぎ、部屋干しした洗濯物も乾きやすく、除湿器のように水を捨てる必要がないので手間もかかりません。

◆穏やかな涼しさで冷え性の方にもおすすめ

また、エアコンのように冷たい風がないため、暑い夏に、エアコンを使用する際、「人によって適温が違う」「体が冷えすぎる」という悩みを持つ方にもおすすめです。「全館床暖房」のパイプに水を流すことで、“ふく射”※の効果でやんわりと涼しくなります。

※夏季におけるふく射とは、空気がなくても温度が低いところから高いところへ熱が伝わる原理です。

◆エアコン除湿と比べ、ランニング電気コストが約半分

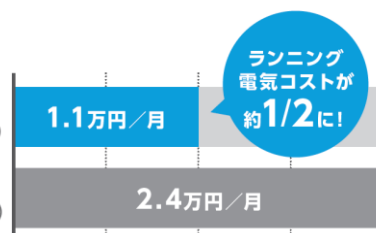
今回の調査で、在宅時間の増加や、夏にエアコンを使用することによって、電気代が上がったと感じている人が多くいました。「全館さらぼか空調」のランニングコストは、8月に除湿運転と床暖パイプに通水した場合、約1.1万円/月。温度を下げずに除湿する再熱除湿エアコンと比べると、電気コストはおよそ1/2※となります。

※建築条件や生活環境などにより異なります。

■ 8月の空調費用の比較

全館さらぼか空調
(除湿運転+床暖パイプに通水)

従来の全館空調
(再熱除湿エアコン+ロスガード90)



※温暖地域、延床面積 37.8坪の場合の試算

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社一条工務店 担当：津川、甲斐、加藤

Tel : 0120-110-684 E-mail : koho-office@ichijo.co.jp